

# ご近所の お医者さん

□  
695  
□

内科外科にいみ医院長 新見行人さん 一箕面市

## 祖父を追って町医者に

大学を卒業後、消化器外科医(叔父が九州大学第1外科助教授でした)にあこがれ、出身大学でお世話になり、2010年に「町医者」になるべく開業をしました。

例えば母方の祖父は医者で、福岡県飯塚市の炭鉱の町で開業をしていま

たが、僕が

生まれた65

歳の時に脳

出血で倒れ

永眠しました。母によると専門の皮膚科に限らず、何でも診ていたそうです。なんと、犬や猫にも予防接種をしようとしたエピソードもあります。暇があ

## 望んだ仕事でできる幸せ

れば診療所を抜け出し、地元の方と囲碁ばかりしていたそうです。一方で、生活が苦しい患者さんから診療代をとれなかったこともしばしばあり、診療所はどうとうつぶれてしまったとか(ほんまかいな?)。

そんなことを幼少の頃より母から聞

など知らないことだらけでした。

しかし、そこで役立ったのが長い学生時代で築いた自分の幅でした。塾講師の経験や、会社社長をしていた友人のお父さんから酒の席で教えてもらった経営学、そして、相談できる同級生の医師が多いことにもしばしば助けられてきました。どんな経験も役に立つようです。不思議なものです。

人生はたったの1回しかありません。

自分が

望んだ「町

医者」を生

業にしてい

ることは大きな幸せです。祖父が生前、どんな気持ちで患者さんと向き合っていたのかは分かりませんが、町医者になって14年、「困った時はお互い様、人一倍おせっかいな笑顔の診療」だったのでないかと考えます。勤務医の親戚はいるものの、開業しているのは僕だけです。許斐家(母の旧姓)の医療理念を忘れずに医療に精進したいと思うこのごろです。



かされていたからか、物心がついた時には医師になることを決めていました(これを洗脳というのでしょうか?)。とはいえ、そこからが本当に大変で、医学部合格には4年かかり、大学はなぜか7年も通学し、国家試験も2回も受けるはめになりました。そして時はたち、祖父の後を追いかけるように開業しましたが、実際は医業以外にもすることが多く、スタッフや財務の管理